

# 制度変更から4か月早くも出た 二七在留カード

## 国際捜査課の元刑事に偽造対策を聞く



### 法務省が公開した在留カードの見本

今年7月から滞在3か月以上の外国人に発行されている在留カードの偽造品が、とうとう見つかった。制度変更から約4か月で早くも偽造された在留カードを見破ることはできるのか。

偽造在留カードは、岐阜県警が不法残留の疑いで逮捕した中国人の関係先から押収された。これまで在留外国人は不法滞在者でも公的身分証となる外国人登録証が各自自治体で発行できる。スサンな管理体制にあったが、法改正で法務省入国管理局が外国人登録証に代わる在留カードを発行。ビザや住民登録情報などを一元化することで、管理強化体制となった。

在留カードの偽造は絶対に阻止しなくてはいけないところ、対策は入念だ。日本の偽造防止技術

もICチップが内蔵されているほか、2つのホログラムや傾けると色が変わる高度な細工が2か所に施されていることが公表されている。

実はこのほかにも秘密が隠されているという。神奈川県警国際捜査課に従事し、外国人犯罪に詳しい元刑事の小川泰平氏は「偽造対策は本当に綿密。外国人登録証にも入管や警察のごく一部しか見破れない隠された偽造対策の仕組みがあったほどです。新しい在留カードにも当然取り入れられているでしょう」と指摘する。

それだけにプロ犯罪者は在留カードには手を出さないとも。

「中国の窃盗団やフィリピンや韓国の犯罪組織はいくら精巧なカードを作ってもすぐに偽物とバレるから使わない。一方、不法滞在者を相手に売りつける中国人がいる。不法滞在者は本物の区別がつかないから粗悪品でも買っていくんです」（小川氏）。カード切り替えてさまざまなきが出ているようだ。

は、世界でも群を抜くレベルで、紙幣やパスポートでも偽造例は少ない。在留カードに